

# げんでん ふれあい 福井

2011 AUTUMN 第41号

ふくい県民総合文化祭

若狭の歴史と人物「酒井家と小浜藩(三)」

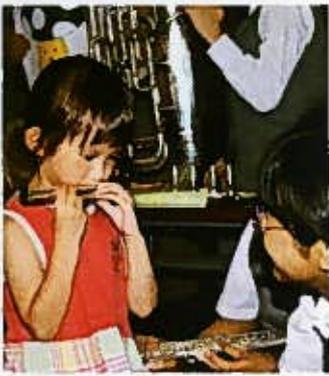
ふるさと福井「食育の祖 石塚 左玄(七)」





福井地区中高合同バンドによる演奏

このコンサートはコンクールで優秀な成績を収めた団体の演奏を県民に楽しんでもらうと同時に、団体相互の交流によるレベルアップを図る目的で昭和49年から実施されています。今回の演奏会には、7月に県立音楽堂において2日間にわたり行われた中部日本吹奏楽コンクール県予選会、同じく3日間にわたって行われた全日本吹奏楽コンクール北陸支部予選会にお



楽器の演奏体験をする一般参加者

いて優秀な成績をおさめた8団体と、開催地の中学・高校生による合同バンドの計9団体が参加しました。また、1階ホールでは社中学校生徒の指導による楽器の体験コーナーが設けられていました。



フルート、ホルンなどいろんな楽器の演奏を体験

### 太鼓ふれあいフェスティバル

太鼓魂2011

福井県太鼓連盟主催の太鼓ふれあいフェスティバルが、9月4日越前市のいまだて芸術館で開催されました。

日本太鼓（和太鼓）は古来より神事や祭礼において、また、情報伝達手段として重要な役割を担ってきました。礼節を重んじチームワークによる全身を使つての演奏は、子どもたちの健全育成、郷土愛の育成の手段としても注目されています。伝統音楽としての太鼓のほか新たな創作太鼓も加わり、海外公演でも日本

の心を伝えるものとして高く評価されています。

立ち見が出るほどの盛況のなか、オープニングは越前権兵衛太鼓（越前市）、名田庄太鼓勇粋連（おおい町）、

八ツ杉権現太鼓（越前市）から選抜された5人の競演による大太鼓の演奏でスタート。最終太鼓に向かったままの演奏で、一度も客席を振り向かないまま幕が下りました。



大太鼓による力強い演奏

打ち手が最後に振り向いたとき「えっ！」という驚きの声があがっていました。

続いての第一部は、来年3月に群馬県前橋市で開催される第14回日本太鼓ジュニアコンクールの福井県予選会も兼ねて、あさむつ子供太鼓（福井市）、名田庄太鼓小粋連（おおい町）、永平寺龍皇太鼓（永平寺町）など8チームが参加、審査の結果、結成21年目を迎

え太鼓道の（礼儀）を基本に週1回の練習に汗を流しているという八ツ杉太鼓遊心（越前市）が選ばれました。

県外2組の特別出演による演奏のあと第2部として、越前いすみ曲友会（越前市）、和太鼓天馬（福井市）、紫式部太鼓保存会（越前市）など大人8チームの演奏があり、最後は各チーム選抜の30人による合同演奏が披露されました。



勝山左義長ばやし保存会などのメンバーによる体験指導

### 福井県市町文協選抜芸能祭

県下市町の文化協会（協議会）からそれぞれ選抜された17団体による演奏会が、9月25日池田町の能楽の里文化交流会館で開催されました。

毎年市町の持ち回りで開催されており、今年も21回目の開催。

日本舞踊、吟舞、詩吟、民謡、謡曲、津軽三味線、大正琴、太鼓などの伝統芸能だけでなく、クラシックバレエやオカリナ、サクソフの演奏など約24



折り紙体験コーナー

また、折り紙体験コーナーやお茶席コーナーも設けられ、多くの方が参加していました。

0名の出演者が見事な芸能を披露しました。  
 地元池田町文化協議会の藤田美樹男会長が開会挨拶の中で「文化活動は単に興味の集まり、個人の快楽を求める場だけではない。無縁社会といわれる中、人と人との絆を深め、自分を、地域を、社会を高め、住みやすい地域づくりに貢献することに意義がある」と述べられたように、それぞれの地域で芸能活動に取り組む人達が一堂に会して交流を深める、大変有意義な場となっていました。



高浜町「英会」による日本舞踊「阿波のうず潮」



楽器体験（ヴァイオリン）



絵手紙作り体験

### ふくい子ども文化祭

福井県教育委員会主催のふくい子ども文化祭2011が、10月23日県立音楽堂で開催されました。  
 「アートワークショップフェスティバル」では、子どもたちが専門の講師から指導を受けながら、白川文字学で遊ぼう、土器・石器・勾玉体験、ポンポン作り、かるた体験、紙粘土教室など、いろいろな福井の歴史や芸術文化を、記念品がもらえるスタンブラリーをしながら楽しく体験していました。

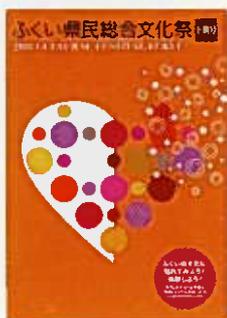


県内高校選抜吹奏楽団と  
 ウインドアンサンブル奏の合同演奏

また「ステージ発表」午前の部では、子どもたちによるミュージカル、日舞洋舞、吟剣詩舞、邦楽、太鼓、合唱、マーチ、吹奏楽などいろいろな分野の発表があり、午後の部では、ブコの吹奏楽団ウインドアンサンブル奏によるスベシャルコンサートや県内高校選抜の演劇、合唱、吹奏楽などトップレベルの公演を楽しんでいました。  
 最後には抽選会があり、素敵なプレゼントが当たるなど、一日中楽しく遊びながら芸術文化をまるごと体験。



折り紙・ちぎり絵・木工工作体験



リーフレット下期号

問合せ先 県文化課  
 0776-20-0580

県では11月半ばまでに実施される各種文化事業を紹介するリーフレット「夏秋号」を7月に発行しましたが、今回第2弾として、来年3月までの事業を紹介する「下期号」が発行されました。県のホームページでも紹介しています。まだまだ多くの事業が県内各地で開催されます。是非参加してみてください。

### リーフレット下期号発行

畜南地域からは無料バスも運行されました。



クロッキオ（越前市）による  
 開幕公演ミュージカル

# 福井県高等学校 総合文化祭

## 耳を澄まそう 心の潮風 声を形して 繋がる輪

ふくい県民総合文化祭の一環として、第22回福井県高等学校総合文化祭(当財団協賛)が県高等学校文化連盟に所属する「演劇」「合唱」「放送」「囲碁」「弁論」など23の部会毎に、県下各地で開催されています。

文化部のインターハイとも呼ばれている全国高等学校総合文化祭も、今年は8月3日から7日まで福島県で開催され、芸術文化に取り組む生徒たちの成果を発表する場になっています。

今回は「国語」部会や「理科」部会などによるコンクールや研究発表会についてご紹介します。

### 国語創作コンクール

このコンクールは日本語の力と表現の可能性についての関心を喚起することにより、学校における文芸創作活動の振興と向上を図ることを目的に、「創作・評論」「詩」「作文」「短歌」「俳句」の5部門において作品募集が行われ、県下28校の生徒から合わせて442作品の応募がありました。

特に作文については、遠い東北で起こった地震津波による被害を身近に感じて、その思いを綴ってほしいとの願いを込め、課題を「絆」「根」「あかり」などと設定したところ、過去最高の141作品の応募がありました。

その審査会が9月15日に福井商業高校において、各校の国語担当の教師23名により5時間近く行われました。



応募作品の審査風景

各部門の最優秀賞は次の皆さんです。

**創作** 北島弓絵(高志高校)

**詩** 大谷桂輔(三国高校)

**作文** 吉川なつみ(丸岡高校)

**短歌** 辻愛由菜(美方高校)

「父恋し混沌の街でそびえ立つ  
通天閣を思い出すとき」

「あてもないまたねが

今もホケットで錆ついて

なお脈打っている」

「暮れ渡る橋でさよなら  
言いかねたふたりの頭上  
鳥が飛び立つ」

**俳句** 岡崎かれん(金津高校)

「あめんぼの円舞曲(ワルツ)  
重なる雨模様」

「色づいた梅の実老けこむ土用干し」

「朝顔が眩しい咲くかな被災の地」

「一瞬の海との戯れホケットの砂」

「風はこぶ田刈りの匂いにつかしく」

受賞作品については紙面の関係もあり、短歌・俳句のみ紹介させて頂きます。

なお、これらの作品は第26回全国高等学校文芸コンクールに応募されます。

### 第59回理科クラブ

#### 研究発表会

物理・化学・生物・地学など理科クラブに所属する生徒たちによる、日頃の研究成果の発表会が11月1日福井県立大学で開催されました。

関素夫理科部会長(勝山高校長)が「理科研究のおもしろさは「なぜ?」という疑問をもとに空想を働かせ、実

験や観察を重ね真実を追い求めること。どんなに小さなことでも世界で最初の発見者になれたら素晴らしい」と開会挨拶。

続いて7校の理科クラブが8研究作品について順次発表。審査の結果は

#### 最優秀賞

「音叉の鳴らせ方の研究(丸岡高校)

#### 優秀賞

「ラン藻の研究(他の植物の成長に及ぼす影響)(若狭高校)

「日野山(二次林における遷移の研究II)(武生東高校)

なお、この3作品は科学の甲子園とも呼ばれる第55回日本学生科学賞に応募されます。

### 読書感想文コンクール

県下29校から1万3千3百編余の応募があり、各高校での一次審査を経た、課題読書17編、自由読書98編の審査会が11月4日に高志高校において、国語担当の教師により一日がかりで行われました。

このうち次の最優秀賞3編は、第57回青少年読書感想文全国コンクール(・読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。)に応募されます。

**松本亜希(仁愛女子高校)**

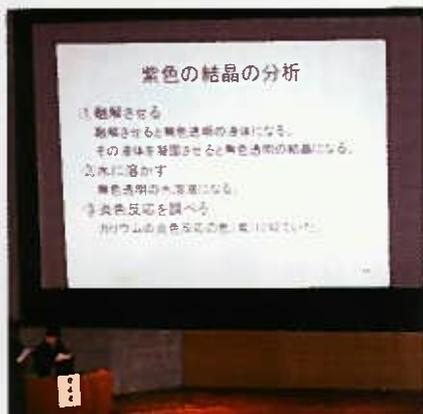
「光のその先に(課題読書)」

**辻愛由菜(美方高校)**

「国民の国(自由読書)」

**内藤桃子(若狭高校)**

「信念(自由読書)」



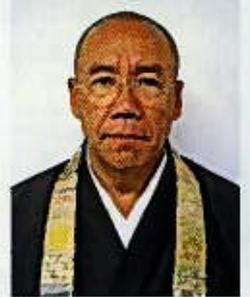
敦賀高校化学部による研究発表

# 酒井家と小浜藩(三)

江戸初期から学問を奨励した酒井忠勝

文:杉本泰俊

筆者プロフィール



杉本 泰俊氏  
Taisyun Sugimoto

1949年(昭和24年)10月、福井県生まれ。高野山大学仏教学部卒業。小浜市に奉職。世界遺産推進室長、小浜市立図書館長などを歴任。2010年3月に退任した。これまで小浜市史の編纂に携わったほか、福井県史の調査執筆員を勤める。著書には「若狭の古寺美術」のほか、小浜市、ならびに小浜市議会が発行した「御食国」「小浜市議会史」の編集・編纂に当たった。1990年より高浜町中山寺住職。2010年5月より京都仁和寺総務部長。

## 酒井忠勝と小浜町

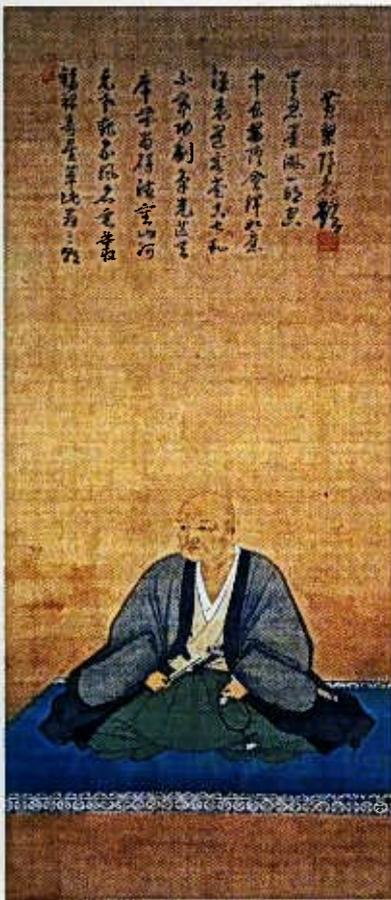
酒井家は、三河国を生国とし、徳川家康の家臣として譜代大名となった家柄です。三代將軍徳川家光は、30万の軍勢をひきいて寛永11年(1634年)に上洛しました。京都に入ってもなく、家光は、京極忠高を出雲松江二四万石に転封し、幕府老中であり、深く信頼していた酒井忠勝をその跡に移し、若狭と越前敦賀郡で一万三五〇〇石を与えました。この移封は、畿内と北国とを結ぶ物流が大きくなっていった小浜湊の重要性がいっそう増したことを重視した家光の意図によるものといえます。

小浜城主となった忠勝は、京極氏の時代にはなかった小浜城に天守閣を建

て完成させました。天守閣は、高さ九間、三層で、江戸城の富士見櫓を模したものと伝えられています。

忠勝のあと、酒井氏は十四代忠禄に至るまでの間、一部の分家はあるものの、一貫して若狭国を領し、明治維新を迎えました。

初代忠勝は、徳川秀忠、家光、家綱に仕え、江戸幕府の基礎を築いた重要な人物で、とくに家光からの信頼を得て大老職となり、幕府政治の中心的な役割を果たしましたが、領地小浜のことについても、家老に宛てて、小浜の町づくりに細かくいろいろな指示を出しています。寛永12年の書状には、「小浜町中くたびれ、米二千俵小浜値段にて売付」また「敦賀の米一重俵にて事の外こぼれ若州二重俵申付」、「小



酒井忠勝肖像 小浜市立図書館蔵  
(資料提供 小浜市)

の古米給人に渡し」とあり、経済的なことも事細かく指示。また「百間橋往來の道、土橋二欄干を仕り」、「橋道具は常高院屋敷脇の家二つ三つ壊ち」と土木的な事もあります。さらに「町中村々五人組改め、キリシタンの宗旨穿鑿」と幕政に関することは一早く申し伝えていきます。その他、「町中の仕置きは、えこひいき無く申し付け、公事の時には「寄合場に召し寄せ、奉行や目付けから申付け」、「町中火の用心のこと」、「男女売買禁止」、「竹木伐採禁止」と細かく指示をしています。こうした藩主忠勝の治世が、小浜をより豊かにし、単なる城下町だけでなく北国と畿内を結ぶ中継都市として大いに発展していきました。

小浜町は、江戸時代初期、敦賀と共に海産物の集散地として大変栄えていました。この小浜町の城下町としての整備は、江戸時代初期の京極高次が、小浜城を造営するに当たって行った区



小浜町絵図 小浜市立図書館蔵 (資料提供 小浜市)

画整理に始まります。彼は、城を中心として周囲に武家屋敷を配置し、北川をはさんだ北部に漁師町の西津、そして南川をはさんだ南西部に、町人と寺を集めた城下町を計画しました。南川

(現長源寺裏)河口附近には廻船問屋

の蔵を建てさせ、上・下市場町には回船に携わるものなどを住ませ、切戸といわれる浜浦町・漁師町には一部漁業を営む半農半漁の人々を、また八幡神社を中心として豪商と呼ばれていた多くの町人を配置させました。

## 小浜藩と学問

また忠勝は商業だけではなく学問の奨励も行いました。小浜藩では、初代藩主酒井忠勝以来、儒学を中心とする藩学振興に力を入れており、若越の諸藩の中では最も早く藩校を創設しました。七代藩主忠用の時、寛保3年（1

734年）崎門学派の京都望楠軒の講主であった小野鶴山を招いて藩士を教育しました。これより先の元文2年（1737年）六代忠存は、江戸で儒者稲庭正義（迂斎）を召し抱えています。正義は、山崎闇斎の高弟佐藤直方の門弟で、延享2年（1745年）小浜に移住しています。その後、藩士の山口春水が、京都の若林強斎の望楠軒塾に学び、小野鶴山を忠用に推薦して講主としました。

明和7年（1770年）鶴山が死去し、そのあと望楠軒四代目の講主であった西依墨山が招聘されました。そ

の鬼瓦に輝く若狭剣片喰の酒井家家紋は、藩学問所唯一の建築遺構としての風格と激動の歴史を物語る歴史資料として価値を有し、今は若狭高校の正門となっています。

この開学にあたり古学派（仁斎学派）の家中教授役中村彦六は解職され、藩学はこれ以後、崎門学に統一されて、順造館は崎門学派の教授によって指導がなされました。墨山の後は、その子孝鐸、さらに孝鐸の子孝博や大沢鼎斎等によって指導されています。

開校間もない安永3年5月、藩の老中「子供若キ者行儀」について、学問所での指導だけでは不十分なので、家庭における指導を徹底しよう指示しており、行儀作法の指導に力を入れたことがうかがえます。また、天明2年（1782年）正月の「順造館惣壁書」によれば、校内では礼儀を守ることに重視され、朱子学以外は異字として禁止されています。また、同年正月、順造館教授の名で出された「規則」には、「子弟朋友の交、信義を以て主本となし、礼讓の重此館中第一義なり」と師弟間の礼儀を重んじています。このように順造館の教育方針は「礼節を重んじる」であったことが伺えます。

順造館では、8歳から15歳までを内舎生として主に素読を行い、16歳以上を上舎生と位置付け、歴史および経義の講習をさせていました。教科書は、「四書五経」のほか「小学」「近忠録」「靖献遺言」、日本や中国の歴史書などでありました。開校時刻は、辰の刻（午前8時頃）で、閉校時刻は未の刻（午後2時頃）であり、会読などで残る場合には、それ以後の在校も認めて

います。

学問所への出席状況は、その後次第に悪くなったようで、天明6年（1786年）には「近來一六講書之節出入至而少ク、如何之事二候」と申し渡し、学問所での講書への出席を促しています。また、寛政2年（1790年）、6年、8年にも同様に出席を促しており、その甲斐あって同9年には「一六之講日二者其後出入も相増尤之事二候」のようになっていたと記されています。

享和2年（1802年）に、藩校の建物が増えて替えられました。この年、学問所の「御改格」がなされ、「神儒両道も兼備仕候御時躰」により神書神道の教科書も開講されました。この開講をめぐって、「神道儒道教導之筋」が議論（神道と儒教が争論）となっています。さらにこの年、藩士中の子供たちのうちには一向に学問所へ出席しないものがあり、また講書に出席した年長者たちも「学問義理之筋」を詮議することはなく、学問は「読書写文字斗之稽古場所之様」になり、実学の筋が立たなくなっていました。このため家中のものに年限を決めて出席を義務付けるように教授方が求めています。

さらに江戸の藩邸では、上屋敷に信尚館、中屋敷に必観楼、下屋敷に講正館が相次いで開校しました。山口春水の子風簷が預って教授となり、菅山・巽斎と続いて藩学を振興させました。

このように藩士だけではなく町民にも学問を奨励した酒井家は、小浜の文化の向上に寄与しました。



順造館建物 若狭高校正門（資料提供 小浜市）

順造館の正門は、天保5年（1834年）に建築されたもので、本門は切妻造・本瓦葺の薬医門で、主要部分を樺材とする虚飾のない素朴な造りとなっています。築後の歳月に加え、幾度かの移築と補修で当初の面影を大きく変じていますが、今もなお両翼の袖塀に遺る華やかな海鼠塀、大棟両端

# 食育の祖 石塚左玄 (七)

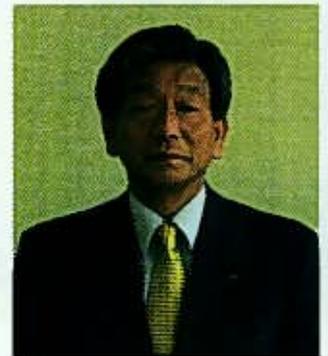
左玄の訓え

④ 入郷従郷の風土論

⑤ 一物全体食

文 / 岩佐勢市

筆者プロフィール



岩佐 勢市氏  
Seiichi Iwasa

1949年福井市に生まれる。鳥取大学卒業。JA経済連・JA厚生連に奉職。前JA福井県厚生連理事長。職務の関係から住民健康管理のうえで、特に子供の食育に注目。現代の子供達の食生活の乱れを憂う。自らもスローフードの研鑽ならびに、福井市生まれで食育の祖と言われる石塚左玄の研究を進め、業績の紹介とともに、食育の重要性の啓蒙と、食と運動による健康づくりを提案している。石塚左玄の業績に詳しい。

## 入郷従郷

「地産地消」が大ブームとなっています。石塚左玄は「入郷従郷」と言う言葉で風土の重要性を謳ったのですが、彼の弟子達は「身体と土地は一体の物である」「人間と自然は一つのものである」を意味する仏教用語「身土不二」の言葉を使って、左玄の食養を広めて行きました。

左玄は「入郷従郷」と「風土」の言葉を使って、自然と人間の関わり合い即ち地域の農産物と健康の説明をしています。食養の具体的実践として、住んでいる土地、気候、風土そして伝統の食物こそが原点であり、郷に入れば郷の伝統文化・風習・食生活に従うべきと推奨しました。又著書の中で「風土異則民族不同」とも言っています。「風土が違えば民族は同じにならず、土地の気候・土壌・地形等が変われば当然農業も変わり生産物も変わる。」風土が変われば生活習慣や食習慣も異なり、人種も異なるというのが左玄の風土論です。そして身体や体格のみならず、風土によって人間の心や人格まで

## 食が人をつくる

変化し風土がそれらを決定すると言っています。

つまり住んでいる土地、水、気候条件等に左右されて地域の農業のあり方が決まり、その地域で生産される農産物や海産物がその地域に住んでいる人間の食になり、その食がその地域の人間の体格・身体・心・人間形成を決定すると言いました。そうすると、その地域に住んでいる人はその地域の物を食べるのが最も自然で身体に優しく、栄養吸収も良く健康的であるという事になります。

地産地消は、消費者にとって近場で生産者の顔が分かり食の大きな安心感につながります。安全な農産物として信頼できる事が人気の理由にもなっています。

しかし左玄は食の安全安心ではなくて、人の健康からの「地産地消」的考えであり、ブームの地産地消とは大きく切り口が違ふ事も認識すべきです。安全・安心が売り物の「地産地消」ですがそれだけではなく、人間の健康と

## 遠産遠消と自給率

食の関係が「地産地消」です。

日本の現在の食を見ると地産地消とは言えず、むしろ「遠産遠消」とも言うべきで世界各地から食物を輸入しているのが実情です。わが国の食料自給率40%は図1から分かるように先進国の中で最低であり、自給率は毎年下がってきました。今や60%を世界各地に頼っている現状です。これからは世界的な食糧需給逼迫で安定した食の確

図1 先進国の食料自給率 (JA 全中資料から作成)

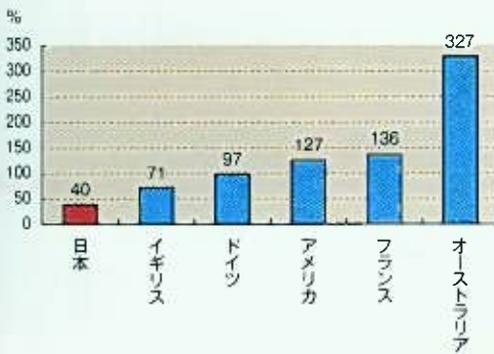
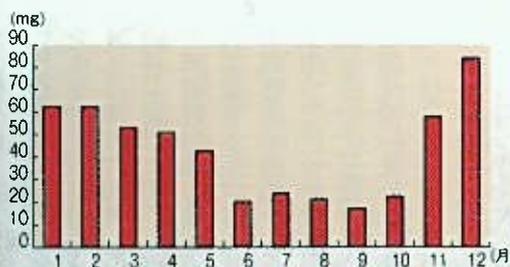


図2 ほうれんそうのビタミンCの季節変動 (女子栄養大学の辻村卓教授による)



## 旬産旬消

保は不可能と思われ、国民の食糧安否と健康の観点から国としての緊急課題となっています。

我々が生きるために欠かす事の出来ない必要不可欠の食「春苦味、夏は酢の物、秋辛味、冬は脂肪と合点して食へ」と左玄が言っている様に、「地産地消」は旬の物であり、新鮮で栄養学的にも優れた地域の農産物を毎日食する事が健康にも大切となってきます。

これが「旬産旬消」の言葉の意味です。日本は四季が明確で風光明媚な国です。そこに住んでいる私たちは、その季節の巡りに合わせて季節の物を食べなくてはなりません。自覚しなくても身体が自然に季節の移り変わりに同調して、時の旬の物に手を出すのです。正に風土は人間と一体となってお互いに手を携えているのです。

## 近くて遠いものを食べる

地産地消に似た言葉に昔から「近くて遠いものを食べる」と言われます。ここで言う近いは地産地消の意味する近くの地域です。遠いものとは、距離を表すものでなくて、生物学的に人間と一番遠い関係にあるものを指しています。つまり遺伝子が人と最もかけ離れているのは植物で、野菜・果実・海藻類が人間と最も遠い関係です。その次は動物類の貝類で以下魚・鳥となり人に一番近い親戚の食材は哺乳動物の牛や豚となります。ですから「近くて遠いものを食べる」とは、住んでいる地域で採集される野菜・果実・海藻を食べなさいという事になります。左玄が論じた、人は穀物食動物なりと言う風土食の意味を含めた言葉と言えます。

## 丸ごと全体食に栄養がある

左玄は化学的食養長寿論に「なるべく種類の皮肌を脱除せざるを良しとす」と書いています。「農産物は生き物であり、例えば皮がついている事もその事で調和しているのだから、農産物の一部分を食しても栄養的に十分で

ない。健康のためにも生き物全体を食べなければならぬ。自然界の動物は丸ごと食べている。」が食養会での口癖だったそうです。つまり野菜は皮をむかず、コメは玄米のまま、魚は内臓・骨まで丸ごと食べる事で生産物の全ての命のエネルギーを貰い、それを人は栄養として吸収すると言っ理論です。そして中でも玄米は穀物食の代表格で住んでいる所で収穫される入郷従郷の農産物であり、正に生きていて栄養豊富な食物であり、白米と違って全体食である事から、玄米を日本人にとって唯一の正しい食の意味で「正食」と呼びました。

## 脚気病

当時既に玄米から精米された白米が主食になりつつありました。精米され取り除かれた米糠の栄養分を補う程の副食はなく、結果として脚気等を始めたとした栄養不足の疾病が猛威を振るったのです。

当時の日本政府は富国強兵策をとっており、兵士に喜んで貰うために白いご飯を兵食としました。しかし兵士は銃砲で死亡するより栄養失調と脚気で死亡したのです。直接の戦闘等で亡くなった兵の3倍の兵が朝鮮半島において脚気で死亡しました。

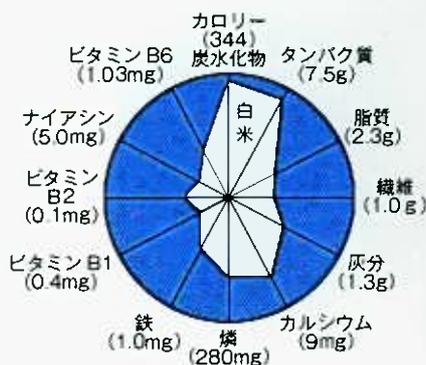
表1 日清戦争と陸軍の脚気病 (吉村昭著「白い航跡」より)

戦死者	戦病者	脚気死亡	脚気病
977	293	3,944	34,783

## 玄米と白米

日本食品標準成分表を参考にして100gの玄米と白米の栄養の差を表したのが図3です。

図3 玄米と白米の栄養



外側の円が玄米の栄養成分で、内側が白米の栄養で玄米に対しての割合で表示されています。両者とも炭水化物やタンパク質はそんなに差が出ていません。しかしなんととっても違っているのは、ビタミンとミネラルの差です。白米のカルシウムは玄米の半分、磷も鉄も50%以下です。多くのビタミン類も玄米を白米にする事で大半が失われてしまい、激減しています。ビタミンB1は白米になると僅か20%になります。80%が糠と一緒に捨てられるのです。その他に蕎麦だけは「正食」に準ずるものとして薦めています。福井の蕎麦は甘皮と言ってお米の糠に当たる部分も利用する全体食で栄養満点、信州そばとは際立っています。

又最近では食物の自然色に人気があります。黒糖等はミネラル豊富で植物繊維が多く含まれるために自然食品と言

われて人気があります。一物全体食とはその食品のあるがまま全体を食する事なのです。例えば魚のあら煮汁も全体食になります。通常食しないあらの部分にも豊富な栄養がたっぷり含まれていて煮汁の中に溶け出しています。蕎麦湯も蕎麦のビタミンBが含まれています。煮豆や煮しめ等の煮汁にも多くの栄養素が含まれていますが、店で販売されている簡単調理などは汁がありませんから本来の全体食とは言えません。果物の皮と果実の間にも栄養は豊富です。りんごも皮をむかずに食べるのが全体食となります。そして出来る限り精製をしない事が食にとって大事な事です。かつて白い砂糖は国の文化のパロメーターと言われ、砂糖、パン、米が3白と囃された時があります。良く考えると単に精製され過ぎた物で栄養を捨てた物です。

## 白くした精米はかす

左玄は著書の中で面白い事を書いていきます。

♪味噌は身礎である。  
糠はやすらぎ  
粕 白くした精米はかす。

味噌の大豆は畑のお肉と言われるほどに、大豆アミノ酸である高いタンパク質を含んでいます。味噌汁は肉こそ入っていませんが、栄養学的には肉汁です。

米の糠は前述のように多くの素晴らしい栄養を持っていますから、左玄はやすらぎと言いました。当然の事です。白くした米はかすになります。

## ニソの杜とは

大島の開拓先祖を祭る神の森の総称として、「ニソの杜」の名は全国にはかにはなく、いわば大島に限定された用語です。ふだん聞き慣れない言葉ですが、日本民俗学の創始者である柳田国男は大野出身の民俗学者、安間清あての手紙のなかで「旧十一月二十三日即ち東国にて大師講などといふ日に此森を祭る故にニソ（ニソ）といふならん」と述べており、旧名田庄村から丹波、播州にかけて当日の霜月祭り（同族間で祭る株講）を「ニジユウソウ」とも呼ぶことから、やはりもつとも妥当な語源説と考えられます。



浜村の杜



上野の杜

## ニソの杜のランドスケープ

大島には山麓や浜辺、屋敷周辺に、「浦底の杜」「瓜生の杜」「西村の杜」「サグチの杜」「清水の前の杜」「窪の杜」「はげの杜」「オンジョウの杜」「上野の杜」の杜「ヒガンジョ」の杜「上野の杜」などと呼ばれる32か所のニソの杜があり、タモノキ（タブ）ヤツバキ、ヤブニッケイ、シイ、などの照葉樹が鬱蒼とした神聖な森の美観を形成していて、自然豊かな大島の景観を醸し出しています。環境保全が叫ばれる今日、自然との共生をはかるべく、大切に保存し環境教育や観光資源としても活用が期待されます。

いずれの森の中心にはタモノキの巨木がそびえ、その下には先祖を祭ると

される小さな祠が安置されています。祠のなかには「地主大神」「遠祖大神」「大上宮」「奉勧請大聖権現」などと書かれた神札が納められています。

ニソの杜のなかには小祠を有さない神木だけの森もあり、実に原始的な神祭りの雰囲気が生い茂った木立ちから立ち昇ってくるようです。古いサンマイ跡（土葬場）であるとの古老の言い伝えもあり、なかには数か所古墳の上に位置するものも見られます。

## ニソの杜の祭り

祭日は霜月23日（11月23日）。前日の夕方から翌朝にかけて、それぞれが関与するモリサンへ必ず二人で参ります。厳格なこの参拝の習わしは古い土葬の様式をしのばせます。前日までに森の祭り場を清掃し、浜砂と海草（ホントワラ）で清めておき、祠にシメナワと御幣を飾ります。ニソ田と呼ばれる神田から収穫した新米で小豆飯のおにぎりを作り、「タガネ」というシト



祠にシメナワを張り祭りの準備をする（あたけの杜）



はげの杜のカラス口（カラスに供え物をする場）

キ（シロモチ）を乗せ、ワラツトに盛り付けてニソの杜の神様に供えます。

なかには「カラスグチ」「カラスグイ」と呼ぶ鳥勧請（鳥喰み神事）の場所が森の一角にあり、供物を野鳥や獣が食べると「オトがあがらっしゃった」といって吉兆といたします。オトとは「お当」、すなわち祭りの当番のことと考えられます。鳥が供物を食べることで神の心意をはかり、神の加護が得られたことの証となるのでしよう。大島の氏神、島山神社の例祭にも御鳥喰神事が行われています。

かつて柳田国男は「大いなる意義はニソウ即ち十一月二十三日を以て先祖の祭りをすることにて小生などは全くはあるが為に幾らも残らぬ老後の時間を費やすに足るとまで致し候」と、安間清あての手紙に書いているように、大島のニソの杜は日本人の祖霊信仰のモデルケースとして福井県を代表する民俗信仰といっても過言ではありませ

架鷹図 一幅  
海山賛  
初代・橋本長兵衛筆



□紙本淡彩 □縦 107.5cm×横 45.3cm □江戸前期  
□賛 「寒岩水穴旧山川於獵鷹人／俊晚乞身在一欄摩磬志回頭／  
刷遯岩嵐前／前妙心海山老衲書之」  
□落款 なし □印章 「橋本」白文方印「元珠」朱文重廓方印

「敦賀地方ではつなぎ鷹の押  
繪張の本間屏風が珍重されて居る  
此を長兵衛鷹と稱するが、必ず長  
兵衛の筆ではない者も無落款の為  
め其名を稱して居る。」(山本元著  
『敦賀郷土史談』一九三五)。  
「つなぎ鷹」とは、鷹狩り用の  
鷹を架(ほこ)につないだ姿をい  
い、「長兵衛鷹」と呼ばれるのは  
多くの場合、このような絵を指し  
ます。敦賀では「長兵衛鷹」の屏  
風や掛軸が長らくもて囃されてき  
ました。ところが筆者「橋本長兵  
衛」の画業や来歴については判然  
としておらず、近年ではその具休

的な画業の一端が解明されつつあ  
りますが、まだまだ謎の多い画師  
です。  
敦賀は何かと鷹との因縁が深  
い土地で、一説には日本で最初  
に大陸から鷹匠が来日し、鷹と  
鷹狩りの技術が伝えられたとい  
い、この故事に因んでその場所を  
「兄鷹橋」(雫の橋※)と呼ぶよ  
うになったと言います。長兵衛の  
「橋」本という姓も、戦国武将で  
あり、敦賀領主でもあった蜂屋頼  
隆が彼を召した時、この故事から  
下賜したと言われます。  
ところで本図の賛を認めた妙心

寺百五世海山元珠は、豊臣氏滅亡  
のきっかけとなった「方広寺鐘銘  
事件」において、梵鐘の銘文を起  
草した南禅寺の高僧・清韓を、難  
癖をつけ攻撃する徳川方から擁護  
した、ただ一人の人物です。  
鋭い爪と嘴で素早く獲物を捕獲  
する猛禽類と、それを飼ひ慣らす  
鷹匠、そして鷹狩りは、古代より  
権力者に好まれてきました。特に  
安土桃山から江戸時代にかけては、  
尚武の気風もあり、権力者のステ  
ータスの道具として、また吉祥の  
印として、あるいは気高い孤高の  
象徴として、「鷹」の絵の需要も

たいそう高かったことでしょう。  
戦乱から平安の世へ、本図の長兵衛  
鷹は、一体どんな歴史を見てきたのか  
興味が尽きません。  
※現在の釜の川は、昭和三年(一九二八)の改  
修によって結城・川崎の東側から大體に西側  
(松島町側)につけかえられています。  
(参考文献)  
敦賀市立博物館発行  
『館蔵逸品図録』一九九四  
敦賀市立市民俗資料館発行  
『特別展敦賀鷹匠橋本長兵衛』一九八三  
山本元著敦賀郡役所発行  
『福井縣敦賀郡誌』一九一五

# 福井の文学碑

## 天性の俳人 伊藤 柏翠

(その1)

文：山岸世詩明  
(伊藤 柏翠俳句記念館々長・ホトトギス同人)

### 出生と俳句へのめざめ

柏翠は明治44年、東京浅草に生まれ、今年(昭和70年)誕生百年、没後12年目に当たる。本名は勇。父は桜孝太郎(旧水戸藩士の家系、後に海軍主計総監、中将)、母は、きく(彼女の父は後に旅順総督)浅草で旅館業を営む伊藤専蔵の養子となる。

養父は彼を横山大観の弟子にと考えていたが、養母から肺結核を感染。18歳から34歳までの足掛け17年間を鎌倉の鈴木療養所(通称七里ヶ浜療養所)で療養生活。

当時、柏翠は実父母の存在を知らされていなかったが、勝山市の平泉登東大教授が発見者となる。後に兄妹会で実兄妹との再会を果たす。

府立三中一年(15歳)の時、彼の作文、帝都の秋、が模範作文となり、その末尾に一句をしたためた。

一雨や又一雨や秋涼し 勇



府立三中時代の柏翠

柏翠は養父母にも死なれ16歳で孤児となる。浅草万隆寺の来馬琢道師(丹生郡出身、後の永平寺の西堂)は出家をすすめるが、20歳の時、東京日々新聞が募集した「日本新名勝俳句」(高濱虚子選)に感激し、その秋、ホトトギスを購読し俳句に傾注した。

研して山ほととぎすはしいまま 久女  
啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々 秋桜子  
漣の上に水現れて落ちにけり 夜半

※「ホトトギス」は明治30年創刊の俳句雑誌。雑誌名は正岡子規にちなんだもの(子規はほととぎすの別名。子規、虚子等が選者であった)。

### ホトトギス初入選と高濱虚子に師事

昭和7年21歳のとき俳句に雅号があるのを知り、菜根譚の、松蒼柏翠(松は青く柏は緑)、より柏翠と号した。又その年のホトトギス7月号雑誌虚子選で初入選を果たす。

うかみ来る顔のゆがめり鮑採り 柏翠

療養所生活中の昭和9年23歳で鎌倉俳句会に入会し昭和11年、当時鎌倉田比ヶ浜に住んでいた虚子に会い師事、星野立子(虚子の娘)や松本たかし(虚子の弟子)を知る。

昭和13年27歳で療養所の許可を得て、入所者に俳句をすすめ、昭和20年には俳誌「花鳥」を創刊し評釈をはじめ、昭和15年29歳の時、ホトトギス8月号虚子雑誌選の巻頭を飾る。

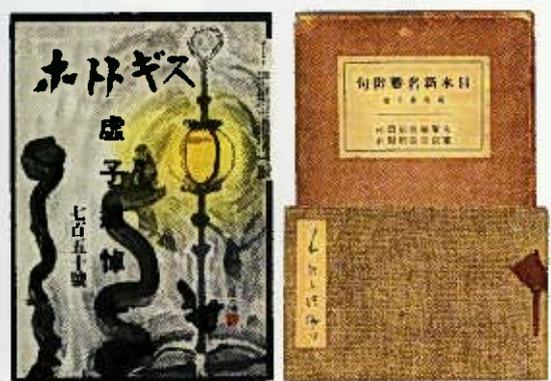
藤をもて飾りたるかな神の森 柏翠  
一掬の風とよぎりし紺揚羽 柏翠

鶯の修法さなかに美しく 柏翠  
おしなべて夏草となり哀れなり 柏翠

又、療養所の咽頭結核患者の早川千恵子には、感染を恐れて看護婦も母も近づかなかつたが、柏翠は粥を食べさせ俳句を教えた。

遺言を考えてをり芥子真赤 千恵子  
(ホトトギス入選)

この時涙を流して、人を俳句へ導くことは聖業である。神仏のなせる仕業、人に救いを与えることを覚えると柏翠は述べている。



日本新名勝俳句(昭和6年)とホトトギス虚子追悼号(昭和34年)

### 森田愛子との出会いと三國への移住

昭和14年柏翠28歳の早春、結核療養のため鈴木療養所に入所してきた当時21歳の森田愛子と劇的な出会いをする。その後、愛子母娘(母は芸妓出身、一人で愛子を育てた)を見て哀れを覚え俳句をすすめた。

昭和16年柏翠30歳、愛子24歳のとき、二人そろって虚子を初訪問、しかし9月には彼女は父のすすめで郷里三國に帰った。

愛子が帰郷後、柏翠は年に何度か三國を訪れ、彼女の仲間や皆古栗雨、嵯峨柚子らと交流した。

仲間の進めもあり、昭和20年34歳(愛子27歳)のとき柏翠も鎌倉から三國へ移住、永正寺に下宿したが、ほどなく愛子の家に身を寄せた。

戦争の影響もあり森田家は大きく傾いた。柏翠は哀れな母娘のため、浅草の土地や家屋を処分して、三國に永住を決める。

同年11月にはホトトギス同人となるが、その2年後に愛子は天逝(享年29歳)。

昭和33年47歳で永平寺第73世熊沢泰禅々師と師弟関係を結び得度。天真柏翠となり、禅師は雪庵、柏翠は梅庵と名乗る。昭和55年、永平寺に師弟句碑が建立された。

今も尚承陽殿に紅葉見る

殊にこの御法の梅の早きかな 虚子  
雪深く佛も耐へて在しけり 泰禅(雪庵)  
柏翠(梅庵)

# 福井の民俗文化

暮らしの  
— 古典 —

シリーズ 6

## アッポッシャとアマメン

### アッポッシャ

越前海岸に面した旧越廼村浦生町、  
柴崎町で毎年2月6日（旧正月6日、  
ムイカドシ）の夜に行われていたお正  
月の行事です。

昭和の初期には、なくなってしま  
いましたが、現在は地元青年団が中心と  
なって、復活させています。

2月6日の夕方、村の12、16才の男  
の子が頭にソウケをかぶり、アマメン  
サンとよぶ恐ろしい鬼のような仮面に  
海草のホンダワラの乱れ髪、ニンジン  
と木の枝の角をつけ、オドロオドロし  
い姿で子供のいる家を訪ねます。

上衣には、紺染めの麻のサツクリを  
着て、手に茶碗や鍋の蓋を持ち、石で  
これらをたたきながら家々を回ります。  
「子どもを連れていくぞ。」とおどし  
たり、いたずらする子をしかつたりし  
ます。

家の人はアッポ（草モチ）を与えて  
許してもらい難をのがれます。

伝説によれば、昔大陸からの渡来人  
が浦生の海岸に漂着し、その異様な風  
貌に村人たちは恐れしました。このこと  
と、それ以前からあった「マレヒト信  
仰」の一つである小正月の訪問者とな  
り、年中行事化したものをアッ



家々を回るアマメン

ポッシャとい  
います。  
伝承では、  
江戸時代から  
行われている  
といわれてお  
り、鬼のよう  
な仮面はアモ  
メサン、アマ  
メサンと呼ば  
れています。

### アマメン

越前市南中には、アマミツキという  
方言が残っています。アマミツキとは  
何かというと、アマミというのは、囲  
炉裏などの強い火に長くあたって  
いると、肌に見える赤い斑点のこと  
で、何も仕事をしなくて囲炉裏にあ  
たっている急げ者をのしった言葉  
です。

このほかにもう一つ、アマミオコシ  
という言葉もあります。これは何かと  
言うと、正月にやってくる恐ろしい  
鬼のことです。

これはアッポッシャと似ており、ア  
マミオコシとは正月にやってくる恐  
ろしい鬼のことだといわれています。  
どうして、このような鬼が、正月に

やってくるのかということは地元では  
聞き取れませんでした。

また、福井市荒木新保町では、昭和  
の初期まで、正月に子供たちが遊ん  
でいると、若い衆が暗がりから、恐ろし  
い面をかぶって不意に現れて、おどさ  
れたことがあります。ここではこれ  
をアマミオコシと呼んでいました。

さらに、河野村甲楽城には昭和の初  
めまでオトシという行事がありました。  
正月の14日から16日までの3日間、  
娘や若い嫁がグループごとに宿に泊  
まって夜明かしをし、この娘宿に若い  
男衆が仮面をかぶったり変装したりし  
ておどしに行きました。

そして、餅や菓子をもらって帰りま  
した。これは、アマミオコシの行事が  
このような形で残ったものです。

領北地方の関連行事をみてきました  
が、アマメンについてご紹介します。

福井市白浜町では、節分の日アマメ  
ンという行事が行われています。毎年  
2月3日節分の午後7時ごろ、町内の  
小中学生が神明神社に集まり、中学生  
はボール紙製の赤や青の鬼の仮面をか



子供をおどすアマメン

ぶり、シユロの木の枝で作った蓑を着  
てアマメンになります。

神殿に参拝した後、小学生を従えて  
町内の各家庭を回ります。拍子木を叩  
きながら玄関で「ウオーウオー」と声  
をあげ家の中へ入ります。子供を見つ  
けると「悪い子取って食ってしまう  
ぞ。」連れていってしまおうぞ。」と  
おどします。子供は家じゅうを逃げ回り  
親のとりなして、厄払いのお札として  
菓子やミカンを渡し、アマメンたちに  
帰ってもらいます。



家々を回るアマメン

町内では夜遅くまで子供の泣く声や  
歓声が響きます。小中学生たちは午後  
9時ごろ神明神社に戻り解散します。  
このような年中行事は日本海沿岸に  
よくみられ、能登半島のアマメハギ、  
秋田県のナマハゲとも共通した部分  
があります。

節分は立春の前の日である。この日を節目  
に冬から春の季節に変わるので全国的  
に鬼を追い払う行事が行われています。  
これは、宮中の年中行事として行われ  
ている鬼払いの儀式、追儺をまねたも  
のだといわれています。

アッポッシャは、旧正月6日の夜、  
アマメンは節分の夜と日は分かれてい  
ますが、ともにマレヒトガミ（訪問神）  
であることが共通しています。

## 大谷研人・今川裕代コンサート

ハーモニーホールふくい

当財団では、福井県出身で将来有望な若手芸術家の海外での研修留学を支援するために、「特別奨励金支給制度」を設けています。

これまでに支給対象となった二人のピアニストによる演奏会が、それぞれハーモニーホールふくいで開催されました。

**大谷研人**さんは小学5年生のときにドイツに留学、ハンガリーのリスト音楽院、バルトーク音楽院などを経て、現在ヨーロッパ最大級の規模を誇る国立ベルリン芸術大学に留学中。

8月16日に開かれたリサイタルでは、超絶的な技巧が必要とされ、ピアノの魔術師と呼ばれたリストの曲「ダンテを読んで」ソナタ風幻想曲」など圧倒的な演奏力を披露しました。

## 就任ご挨拶



財団法人  
げんでんふれあい福井財団  
理事長 高辻 哲

第41回理事会で推挙され、10月1日付けで理事長に就任いたしました。

おかげさまで、当財団は発足以来今年で14年目を迎え、この間、皆様方の温かいご協力とご支援により、福井県の文化振興をはじめ、ふれあいとゆとりのある地域づくりに、微力ながらお手伝いできる財団として定着し、実績を積み重ねていくことができました。

東日本大震災に伴う福島原子力発電所での事故発生を契機として、原子力発電を取り巻く諸情勢は大変厳しいものがありますが、当財団としては今後とも県、市町や文化団体の皆様と連携を密にして、更なる地域文化の振興に力を入れて行きたいと考えています。

一層のご指導・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

## げんでんふれあいコンサート2011

財津和夫 LIVE&TALK

優れた芸術鑑賞機会提供の一環として当財団が毎年開催しているコンサートが、5月の杏里コンサート（福井市フェニックス・プラザ）に続き、10月22日、財津和夫さんを迎え敦賀市文化センターで開催されました。

県外からの徹夜組も含め、販売開始日には多くのファンが並び、チケットは一日目でほぼ完売という人気ぶり。

当日は千人を超える熱心なファンが会場に詰めかけました。

財津和夫さんは、ビートルズに影響を受けた世代、元「チューリップ」の中心的人物。作曲家として他のアーティストへの楽曲提供



やCMソング・テレビ主題歌の作曲だけでなく、俳優としてテレビや映画にも出演するなど、幅広く活躍しています。

オープニングはビートルズの「I wanna hold your hand」、大ヒットとなった「心の旅」や「虹とスニーカーの頃」、ゴマーシャルソングとしても使われた「WAKE UP」、NHKみんなのうたでも放送された「切手のないおくりもの」をはじめ「青春の影」「サボテンの花」など数々の名曲がたのしいおしゃべりとともに披露されました。

観客が立ち上がって手拍子、一緒に歌う場面もありました。

## 若狭路文化研究会 第5回フォーラム

岡田孝雄遺稿集刊行記念



敦賀高等学校などで教壇に立ちながら、郷土の近世史の研究・調査を続け、多くの研究論文を残された故岡田孝雄氏の遺稿集が、若狭路文化研究会の企画により「近世若狭湾の海村と地域社会」として刊行されたのを記念してのフォーラムが、10月15日敦賀短期大学で開催されました。

最初に主催者を代表して金田久璋会長が「嶺南地方に伝承されてきた貴重な民俗文化の衰退が著しいことに県教育委員会が危機感を持ち、当会はその受皿として12年前に発足した」「当会の初代副会

長岡田先生の偉大な業績を顕彰し後世に繋げることが出来れば本望」と挨拶。

続いて藤井謙治氏（京都大学教授）が「私が若狭高校2年のとき藤井先生から世界史を教わった。歴史を熱く語る先生、話す歴史家。理科系から文科系に志望変更するきっかけになった」と、業績やエピソードを交えながら記念講演。

続いて、多仁照廣氏（敦賀短期大学教授）の進行で、東幸代氏（滋賀県立大学准教授）、本川幹男氏（元福井県史調査執筆委員）、藪本金一氏（若狭高等学校校長）、外岡慎一郎氏（敦賀短期大学教授）ら4人のパネリストによるシンポジウム。

岡田氏の研究方法や業績をたどりながら、歴史民俗の宝庫と言われつつどんどん失われていく若狭地方の歴史について活発な議論がありました。

今川裕代さん

岩城宏之メモリアルコンサートでピアノ演奏

吹き込み、市民に愛される場所になるお手伝いをしたいと思っている「クラシック音楽が、もっと身近な存在になり、より心豊かな社会に繋がっていくことを願って、これからも精一杯活動を続けていきたい。」と語っていました。



9月9日に開かれた井上道義指揮、岩城宏之メモリアルコンサートでは、オーケストラ・アンサンブル金沢をバックに「繊細で洗練された楽曲解釈、タッチの達人」と評価されている演奏力を披露しました。「留学中は、ピアノだけでなく音楽を取り巻く文化に肌で触れ、日本では味わえない人生経験を積むことが出来た。また、日本文化の素晴らしさや日本人としての誇りも持てるようになった。」日本には全国各地に立派なホールや楽器が沢山ある。私はそこに息吹を

大谷研人さん

ピアノソロリサイタル ドイツ便り



中。現在ザルツブルクと日本を拠点に幅広く活動を展開中。

「今回はソロとしては初めてのコンサート。ドイツで学んだ成果を聴いていただきたく、ハンガリーの作曲家リストの曲のほか、ドイツのブラームスやメンデルスゾーン曲も取り入れた。1年間に帰国できる回数は限られるが、毎年ふるさと福井でのコンサートは続けたい。自分の未熟な分をどんどん学び、次回は更に成長した演奏を魅せられるよう頑張りたい」と語っていました。

今川裕代さんはドイツのシュトゥットガルト国立音楽大学を経てオーストリアのザルツブルグ・モーツァルトウム国立音楽大学修士課程を卒業。

第15回 福祉演芸会

大神楽曲芸（豊来家玉之助）& 歌謡ショー（林田麻衣子）

場が開催しました。神楽とは神に奉納するために奏される歌舞のこと。大神楽とは伊勢神宮などの神宮が神社にお参りに来られない人の為に各地を巡って、獅子舞により祈禱やお祓いを行ったのが始まりと言われています。この時共に演じられたのが大神楽曲芸で、傘まわしや皿まわしなど日本の伝



当財団では毎年県内の福祉施設を巡回訪問して、福祉演芸会を開催。今年は10月4日、敦賀市の「リバーサイド気比の杜」を皮切りに3日間 にわたり6会

一方歌謡ショーでも、麻衣子さんが舞台から客席に降りて一緒に歌ったり、また手拍子や掛け声も出るなど、予定の間をオーバーする熱演でした。



統芸能であり、大変めたい曲芸です。「客に驚いてもらう、楽しんでもらうことに強くこだわっている」と言う玉之助さん。楽しい口上とともに客席と一体となる舞台を披露しました。最後に残業サーピスと称し、一人ひとりを回り、獅子頭で足腰の悪いところを噛んで治してあげていました。

文化講演会「大人が笑えば子どもが笑う」子どもは空気を敏感に感じている〜

大棟耕介氏（ホスピタル・クラウン）

当財団と県連合婦人会の共催による講演会が、7月3日、県生活学習館において開催されました。講師は、総勢約40人のクラウン集団を率いる大棟耕介氏。「クラウンとは道化師のこと。空気と状況を読む高感度のアンテナと即興で開く幾段もの引出しを持った、全ての隙間を埋めるへりくだりの名脇役だ」と、まず自己紹介。「家庭でもビジネスでもコミュニケーションと笑いが大切だ」と力説。「コミュニケーションのコツは徹底的に相手を観察する。相手のテンションに合わせて。押しでなく、引きのパフォーマンスをすることだ。ベテランほど相手に話しをさせる。柔道の投げ技に似ている」と。一方、ボランティアで闘病中の子どもたちに夢と笑いを届ける活動をしている



経験から、「毎朝もらった1日を有難い、生かされていると感謝し、全力100%で丁寧に一生懸命に生きる」「日本人は必要以上に笑いを殺している。笑っていると病気が治る。無理やりにも笑うことが大事」「母親が笑えば子どもが笑う。病気がうつるものが笑いもうつる」と、時には演壇から下りての熱演でした。

## 平成24年度 財団の助成を受けたい団体を募集 申請期限4月20日(金)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて助成をしています。平成24年度において文化活動等の事業を行うため、財団の助成を受けたい団体を募集しています。

### 対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成24年4月現在で、原則として設立後2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

### 応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を平成24年4月20日(金)まで(申請事業の実施が4・5・6月の場合は3月20日(火)まで)に当財団に提出してください。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは「げんでんふれあい福井財団」にお問合せ下さい。

## 読者アンケートご回答のまとめ **げんでん 福井 第39号**

本誌第39号(平成23年3月発行)のアンケートに総数22通のご回答をいただきありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

### 第39号で良かった記事

- 第12回げんでんふるさと文化賞及び芸術新人賞受賞者インタビュー 4名
- 若狭の歴史と人物  
「守護武田氏と木下長嘯子(一)」 12名
- ふるさと福井人物シリーズ  
「食育の祖 石塚左玄(五)」 15名
- 第13回ふるさと大賞写真コンテスト 12名
- ふくいの伝統行事シリーズ  
「日向の水中綱引き」 8名
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/33 7名
- 福井の文学碑「山の文学者 深田久弥」 6名
- 福井の民俗文化  
「敦賀市山の初午祭り」 5名
- 情報ファイル 5名

### 本誌へのご意見・ご要望

- 「食育の祖 石塚左玄(五)」を読み、将来親になったとき「食育」の大切さを子どもに伝えていきたいと思った。
  - 表紙の「日向の水中綱引き」の写真、とてもきれいですが、女性が裏方を支えるひとコマも見たい。
  - 明るくビジュアルな編集で楽しい、郷土の歴史などがタイムリーに掲載されていて、楽しく、知的好奇心を満たしてくれる。
  - 助成を決定した事業等の開催日程等を情報ファイルに記事にしてはどうか。
  - 嶺北の歴史上の人物についても載せて欲しい。
  - 財団の支援は文化団体、地域社会にとって貴重。ぜひ続けて欲しい。特に子ども達への支援を。
  - 現在、原発事故で大変だと思うが、これからも本誌を通して文化振興の拡大につながる支援をしていただきたい。
- なお今回は、福島原子力発電所の事故に関連してつぎのようなご意見・ご要望を頂きましたが、当財団は地域の文化振興が目的であり、原子力発電の広報・宣伝等はしていません。ご理解をお願いいたします。
- 号外にて、原発の対震対策を紹介して欲しい。
  - 貴社の今後の取り組みを開示して欲しい。
  - 今回の災害での発電所のこともわかりやすく記事にして欲しい

## 財団イベント INFORMATION

文化講演会	講師 嶋田洋七氏	平成24年 2/5日	小浜市文化会館	小浜市連合婦人会と財団共催
第14回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展	ふるさと大賞および入賞作品を展示	平成24年 2/7(火)~2/19日	げんでんふれあいギャラリー	敦賀市本町
		平成24年 2/24(金)~2/29(水)	ショッピングシティ「ベル」	福井市花堂
平成23年度福井県新人演奏会	公開オーディション	平成24年 2/26日	県立音楽堂	福井県文化振興事業団主催 財団協賛
	新人演奏会	平成24年 3/18日		